匠を育み
みらいを拓く

TODA MIRAI FOUNDATION
GUIDEBOOK 2025

一般財団法人 戸田みらい基金

一般財団法人 戸田みらい基金について

戸田みらい基金は、建設産業のみらいを育む各種事業を展開しています！

世界に誇る、日本の建設産業。
今、その将来を支える「担い手」の育成が急務です。
建設産業は他の業界と比べても若年層の減少が大きい傾向にあります。そうした中で高齢化した技能労働者が離職することにより、技術の継承ができなくなるだけでなく、社会資本の品質や機能維持にまで影響を及ぼすことが危惧されています。
安全・安心な社会基盤を構築し、これを保全していくという建設産業の社会的役割を持続的に果たしていくために、「担い手」の安定的な育成が不可欠です。

「担い手」を育成するというこの大きな課題に対して、各種支援事業を通じて貢献することを目的に設立されたのが、戸田みらい基金です。

本財団の助成事業が、入職者の技術・技能の向上に取り組むことが困難な専門工事会社様や、建設業で力を発揮していくためにサポートを必要としている建設技能者の方々の一助になることを願っています。
皆様と共に、私たちはこの国の“みらい”を育んで参ります。

助成活動

助成に対する審査

戸田みらい基金は、建設産業を支える「担い手」の育成を目的として、現在、以下の３つの分野に関わる助成活動を展開しています。この業界の“みらいを拓く”ために、皆様のチャレンジに対して具体的な支援を実行しています。

活動報告会

活動報告会

戸田みらい基金では、助成対象者が活動内容について報告する「活動報告会」を開催しています。
2017 年 10 月の第 1 回以降、2024 年 10 月の第 15 回まで、毎年 2 回程度、実施しています。(p.12-15)

若手建設技能者の採用・育成及び資格取得に係る助成事業

対象：専門工事会社・団体

若手建設技能者の採用・育成・資格取得に効果的かつ先駆性のある活動に係る費用の全額または一部を補助することにより、専門工事会社等による創意あふれる取り組みを推奨しています。

第 1 回	2017 年 2 月	6件	3 社･3 団体
第 2 回	2017 年 5 月	5件	4 社･1 団体
第 3 回	2018 年 2 月	5件	4 社･1 団体
第 4 回	2018 年 5 月	10件	2 社･8 団体
第 5 回	2019 年 2 月	7件	5 社･2 団体
第 6 回	2019 年 5 月	7件	6 社･1 団体
第 7 回	2020 年 3 月	5件	3 社･2 団体
第 8 回	2020 年 5 月	11件	5 社･6 団体
第 9 回	2021 年 2 月	12件	6 社･6 団体
第 10 回	2021 年 5 月	5件	2 社･3 団体
第 11 回	2022 年 3 月	7件	6 社･1 団体
第 12 回	2022 年 8 月	8件	8 団体
第 13 回	2023 年 3 月	9件	6 社･3 団体
第 14 回	2023 年 8 月	21件	8 社･13 団体
第 15 回	2024 年 3 月	5 件	2 社･3 団体
第 16 回	2024 年 8 月	12件	8 社･4 団体

2020 年から、「若手建設技能者に対する助成」の対象者に、その取り組みの継続と更なるレベルアップを目的とした**ステップアップ助成**を開始しました。

第 1 回	2020 年 3 月	6件	4 社･2 団体
第 2 回	2021 年 3 月	4件	2 社･2 団体
第 3 回	2022 年 3 月	4件	3 社･1 団体
第 4 回	2023 年 3 月	1 件	1 社
第 5 回	2024 年 3 月	1 件	1 社

建設に関する教育振興に係る助成事業

対象：教育関連団体・高校等（A 助成：団体／B 助成：高校）

建設に関する教育振興活動に係る費用の全額または一部を補助することにより、教育関連団体・高校・工業高校等による創意あふれる取り組みを奨励しています。

第 1 回	2019 年 5 月	A助成 :3団体　B助成 :18校
第 2 回	2020 年 5 月	B助成 :27校
第 3 回	2021 年 5 月	A助成 :2 団体　B助成 :22校
第 4 回	2022 年 5 月	A助成 :4 団体　B助成 :25校
第 5 回	2023 年 5 月	A助成 :6 団体　B助成 :35校
第 6 回	2024 年 5 月	A助成 :5 団体　B助成 :40校

外国人建設技能者の育成と就労の促進に係る事業

対象：専門工事会社・個人

2020 年から「建設業の外国人技能実習生等による日本語スピーチコンテスト」を開催しています。

第 1 回	2020 年 12 月	予選：86 名　本選：10 名
第 2 回	2021 年 11 月	予選：63 名　本選：10 名
第 3 回	2022 年 12 月	予選：50 名　本選：10 名
第 4 回	2023 年 12 月	予選：30 名　本選：10 名
第 5 回	2024 年 11 月	予選：103 名　本選：10 名

日本語スピーチコンテスト

第 16 回若手建設技能者に係る助成　**ものつくり大学**

第47回技能五輪国際大会（仏・リヨン）に ものつくり大学が挑戦!!

2024 年 9 月 10 日から 15 日まで、
フランス・リヨンにて第 47 回技能五輪国際大会が開催された。
本大会には日本を含めた 60 の国と地域から
22 歳以下の若者 1,313 名が参加した。
ここでは同大会に参加した
ものつくり大学の活躍を中心にレポートする。

上：第 47 回技能五輪国際大会の会場となった
フランス・リヨンの「EUREXPO LYON」。

1

第 47 回技能五輪国際大会と日本人の活躍

全 6 分野 59 職種の競技が行われた今回の技能五輪国際大会。日本人選手はそのうちの 6 分野 47 職種の競技に計 55 名が挑戦している。また、全 6 分野のひとつである「建設と建築テクノロジー分野」は、レンガ積、家具、建築大工、コンクリート施工、デジタル建築、電気設備、建具、造園、塗装と装飾、左官及び乾式壁システム、配管と暖房、冷凍・空調、石工、壁と床のタイル張、の 14 職種であり、日本はそのうち 9 種目に参加した。

戸田みらい基金は、第 16 回「若手建設技能者の採用・育成及び資格取得に係る助成事業」において、ものつくり大学（埼玉県行田市）の「技能五輪全国大会・国際大会におけるテクノロジストの育成」に対して助成を行っており、今回のリヨン大会に同大学から「コンクリート施工」と「造園」の 2 職種に挑んだチームを支援した。

左 2 点：躯体一式を構築する「コンクリート施工」。坂本選手と笹野選手がペアで挑戦した／右：「造園」の完成写真。石積みなどの丁寧な仕事が評価された。

躯体一式の多能工競技「コンクリート施工」

コンクリート施工競技は、日本の技能五輪全国大会にはないもので、型枠・鉄筋・コンクリート工が一緒になった多能工の競技である。

本競技にはものつくり大学の坂本選手・笹野選手らがペアで参加した。機材も日本にないシステム型枠であり、ホームタイの径も違うという条件下で、残念ながら入賞には至らなかったものの、果敢に挑戦した選手たちにとって、将来に繋がるかけがえのない経験となった。

見事、銀メダルを獲得した「造園」

もうひとつの参加競技である「造園」には、田子選手（ものつくり大学）と福元選手（イサカ緑地：造園連）がペアを組んで挑んだ。同大学の三原斉先生は「2024 年 1 月から 9 月の開催直前までの約 8 か月間、岡山県立向陽高校にてイサカ緑地と日本造園組合連合会のコーチ陣から熱心な指導をいただきました」と話す。その結果、本番では、競技課題に示された噴水・ウッドデッキ風の木橋・石積み・中低木の植栽・草花や芝生を見事に施工した欧風庭園を完成させて銀メダルを受賞した。

三原先生は「近年、日本では建設業の合理化が進む一方で、伝統技能の継承が困難となっています。また、現代工法もその作業方法や手順を熟知している者でないと、生産性の向上に繋がりません。こうした課題から、ものつくり大学では、学生たちに日本の伝統技能に興味をもってもらい、それを現代工法に応用して発展させ、世界に通用する建築技術・技能者（テクノロジスト）として活躍してもらいたいと考えています。今後も技能五輪全国大会や技能五輪国際大会へのチャレンジを続けます」と語る。

「造園」の競技に挑む田子選手と福元選手。

技能五輪国際大会が 2028 年に日本で開催！

この技能五輪国際大会が、2028 年に日本（会場：愛知国際展示場）で開催されることが決定した。

今回のフランス大会における「建設と建築テクノロジー分野」への参加者は、そのほとんどが専門工事会社勤務であった。厚生労働省の補助はあるものの、専門工事会社にとって、若手社員が国際大会に参加するための準備期間の給料や、訓練費、渡航費等は負担が重く、一企業としての参加にはハードルが高い。

戸田みらい基金では、技能五輪国際大会に挑戦する専門工事会社を応援しており、是非助成に応募して欲しい。

第 47 回 技能五輪国際大会において日本は金メダル 5 個、銀メダル 5 個（建設部門では造園）、銅メダル 4、敢闘賞 21 個（建設部門では配管、電工、建築大工、冷凍空調技術）を獲得した。詳細な結果は、下記厚生労働省 HP を参照。
https://www.mhlw.go.jp/stf/press202409171400.html

学校法人 ものつくり大学
〒 361-0038
埼玉県行田市前谷 333
https://www.iot.ac.jp/

第13回若手建設技能者に係る助成　**児島技研**

地域の企業と若者を繋ぐ「児島しごと博」!!

倉敷市の児島地区を拠点に、
地中に埋設する排水管や水道管等のインフラの調査から、
設計・工事・維持管理までワンストップで対応する児島技研。
同社は、地区の先頭に立って
「児島しごと博」を通じて
地域の中小企業と高校生を繋ぐ活動を
推進している。

上：第3回児島しごと博の企業紹介パンフレットの表紙は、
地元高校生がデザインを手掛けた。中央は尾﨑社長。

2

児島技研の尾﨑祐一社長は大手総合建設会社に勤めた後、父が経営していた同社を2019年に継承する。
「その時に衝撃だったのが、私よりも若い社員が、20代の子、たったひとりしかいなかったことでした。このままでは事業継続が難しいと感じました」と尾﨑社長は語る。
そこで早速、倉敷市によるハローワークの合同企業説明会に参加したものの、児島地区の企業の参加枠が少なく、この地域の会社を学生に知ってもらう機会自体が非常に限られた状況であることを知る。
そこで尾﨑社長は「地元の安全を守る建設会社として、自社のためだけでなく、地域の企業のために、かつてあった児島地区の企業説明会のような存在を復活させたい」と決意する。それはコロナ禍の真っ只中、2021年冬のことであった。

上及び下左：児島しごと博で高校生に配布する企業紹介パンフレットの印刷・製本費用に戸田みらい基金の助成を活用することで、企業が参加するハードルを下げている／下右：児島しごと博のホームページにも助成を活用。

「児島しごと博」の開催を実現！

コロナ禍により社会不安が増す中で、尾﨑社長はインターンシップの大学生から意見を聞いたり、企業に呼びかけたりしながら、企画を練り、賛同する仲間を集めていった。
そうした準備を経て、同年7月に「第1回 児島しごと博」、翌2022年7月には「第2回 児島しごと博」の開催を実現した。
これら2回の企業説明会には、地域の企業10業種11社が参加し、それぞれの回に、地元のふたつの高校から生徒約50名が足を運んだ。
「このように2年にわたり児島しごと博を開催した結果、参加企業の皆さんから好評を得て、実際に採用に至ったケースもありました。しかし同時に課題として、学生の選択肢を増やすために、参加企業のジャンルと数を増やしていくことが重要だと考えました」。（尾﨑社長）

2023年の第3回児島しごと博の様子。地元高校の校舎を会場としたことで、企業と学校の繋がりが深くなり、先生方からも好評であった。建設業以外に、アパレルなど多様な地元企業が参加し、高校生が楽しめるイベントとなった。

より実りあるイベントを目指して

そこで尾﨑社長は戸田みらい基金の助成を活用して、パンフレット代等に関わる参加企業の負担をゼロにすることで、この「児島しごと博」をより大きな規模にレベルアップすること、そしてより広くPRすることを計画する。
そして開催した2023年の第3回児島しごと博は、会場を従来の市民交流センターから地元の高校へと移し、計23社（うち建設会社6社）の企業が参加する盛況なイベントとなった。
「2024年も第4回・第5回と実施しており、今後も企業数の拡大を目指しながら、参加企業や高校生にとって、より実りある内容にしていきたいと思います」と尾﨑社長は語る。

株式会社 児島技研
〒711-0903
岡山県倉敷市児島田の口7-1-20
https://kgiken.co.jp/

第3回～第5回児島しごと博の児島技研ブース。管内カメラを操作して文字を読み取る「クイズ形式」等、各種機器を体験できる催しが高校生の人気を得た。

キルギス共和国の首都・ビシュケクの風景。キルギス人は日本人と外見や価値観が近く、国民の教育水準も高い人々である。

3

第13回若手建設技能者に係る助成　**アスタス**

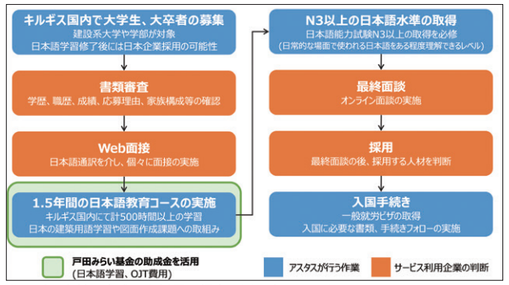
未来の建設業界を支える高度人材を キルギス共和国で育成し、紹介するプロジェクト

アスタスは広島市を拠点に、新築・リフォーム工事業の他、BIM・CAD 図面作成、EC コンサルティング業を展開している会社である。同社ではこれらの事業に加えて、近年新たに人材紹介業を開始した。その狙いについて同社の山下達也社長は「地方の中小企業が若く優秀な人材を獲得できるよう、そのサポートをしたいという想いで始めました」と語る。

建設業界の就業者数が減少して高齢化も進む中で、地方の中小企業が優秀な新卒人材を採用することが困難な状況となっている。そこで同社では母数の少ない日本ではなく海外、具体的には中央アジアにあるキルギス共和国の優秀な若手人材を紹介することに着目した。

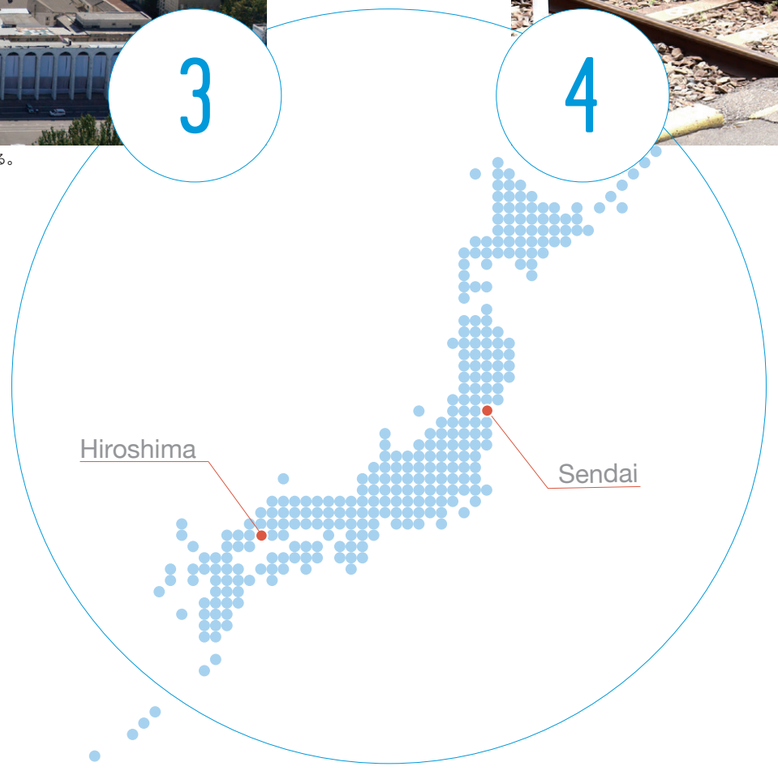
「キルギスの人々は外見的にも精神的にも日本人と近く、日本人との親和性が高い人々です。また教育水準も高く、高度人材として会社の次世代を担う存在になることも期待できます」と山下社長は話す。

スキームは、現地の建築系大学の学生や卒業生を対象に募集を行い、集まった若者にキルギス国内で1年半にわたり日本語教育を行った後、日本の企業が採用して来日するという流れである。今回、同社は現地での日本語教育の部分で戸田みらい基金の助成を一部活用しており、同社の教育コースによって、キルギスの若者たちを日常会話や建築に関わる内容については日本語の通訳を必要としないレベルにまで育てている。



キルギス人材の育成から採用・紹介に至るまでのスキーム。

本プロジェクトを通して、日本で働くキルギスの若者。



株式会社 アスタス
〒734-0005
広島県広島市南区翠1-2-8-103
https://www.astas.co.jp/

クレア工業株式会社
〒984-0822
宮城県仙台市若林区かすみ町24-15
https://crear-indst.jp/

生徒たちが日常的に会社名を見るように、採用実績のある高校の最寄り駅に野立看板を設置している。

4

第13回若手建設技能者に係る助成　**クレア工業**

「生徒や学生が日常的に目にすること」を狙った 左官会社の広報戦略

仙台市で左官工事業をメインに事業展開しているクレア工業。同社では、在籍している60名以上の左官職人のうち、1/4が10～20代であり、また女性も8名が活躍している。「このように多くの若者が活躍する会社になったのは、2022年から始めた広報活動の効果が大きいですね」と同社の佐藤宏樹社長は語る。

きっかけは今から数年前に遡る。佐藤社長が高校へ採用活動に赴いたところ、100名以上の生徒のうち4名しか「左官」という言葉を知らず、衝撃を受けたという。この状況では人が集まらないと考えた佐藤社長は、「左官という仕事と自社の存在を知ってもらうこと」を目的とした企業広報を行うことを決断する。

こうして同社では「仙台市地下鉄の車両」や、採用実績のある高校の「最寄駅の野立看板」「校内の新聞掲示板」に自社広告を出すなど、ターゲットを絞り継続的な広報活動を展開した。

「取り組みを始めて1年目の2022年度（2023年3月卒業）には、高校生4名（男子2名・女子2名）、大学生2名（男子1名・女子1名）の採用に至りました。この計6名の多くが『地下鉄広告を見たことがある』と答えており、広報の重要性を改めて認識しました」と佐藤社長は語る。広報活動はその後も継続しており、今年度（2025年3月卒業）は10名（男子4名・女子6名）の内定を出すなど、若者の安定した採用を実現している。

多くの市民が利用する仙台市地下鉄のドア横やドアに、仕事と社名に絞ったシンプルな広告を出している。

興味をもった高校生・大学生を対象に、職場見学会（塗り壁体験）も実施している。

上2点：「橋梁のメンテナンス」の様子／下左：「地域の道づくり」の様子／下右：「出前講座」の様子。

5

第14回若手建設技能者に係る助成　**アイ・エス・エス**

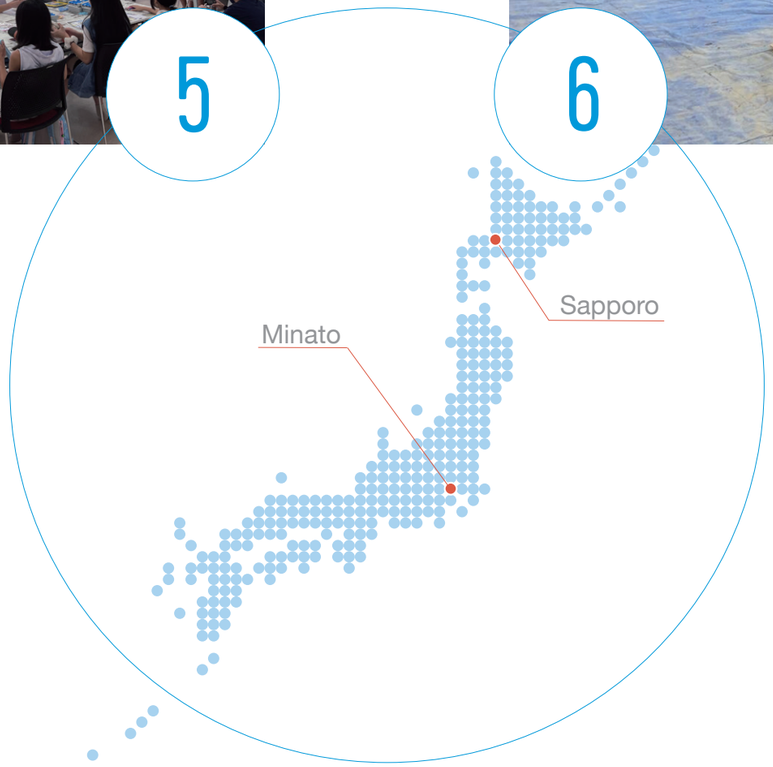
小中学生の時期からインフラに触れ、未来への橋渡しを目指すプロジェクト

橋梁設計、建築設計、インフラマネジメント、などの事業を展開している東京都・港区のアイ・エス・エスでは、業界の課題である「担い手不足」解消のため、インフラに関する教育・理解促進をひとつの目的とする「さら価値委員会」（インフラメンテナンスのさらなる価値を自らみいだし、実践する社内組織）の活動を展開している。

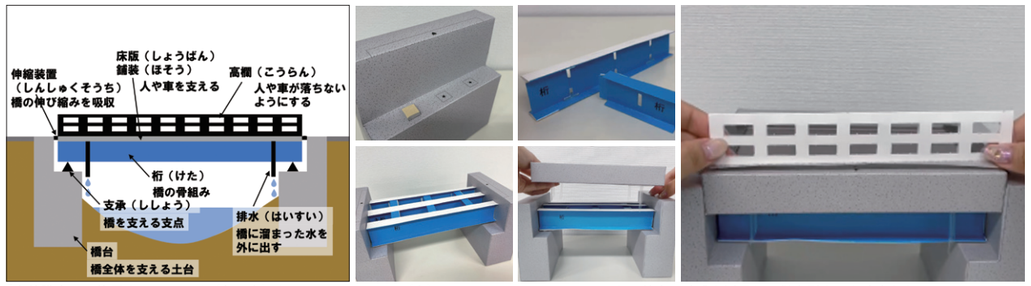
具体的な活動は、地域住民と共に行う「橋のメンテナンス」や「地域の道づくり」の他、橋に関する初歩的な理解促進を目的としたリーフレット等の「広報物の作成」、そして小中学校への「出前講座」などである。

特に「出前講座」は、各学校と協働で、年齢に合わせた難易度の座学＋実践形式の教育プログラムを構築し、教材としてペーパークラフトと実際のコンクリートで作るオブジェを用いるなど、工夫を凝らした内容が好評を得ている。

今回、同社ではこの委員会の活動をより効果的なものに強化するため、企画やコンテンツの充実に磨きをかけ、さらに同社拠点や同業者等に水平展開することを試み、その費用の一部として戸田みらい基金の助成を活用している。同社では、これらの活動を全国規模で持続的に行うことで、未来の担い手が建設業界に興味をもち、将来的な入職者の増加に繋がることを目指している。



株式会社 アイ・エス・エス
〒106-0047
東京都港区南麻布 5-2-32-2F
https://www.issinc.co.jp/



「出前講座」で使用するスライド（左と中）とペーパークラフト（右）。ペーパークラフトは戸田みらい基金の助成を活用して従来型よりも改良した。

6

左：「塗り壁トレーニング」の様子／右：今回導入した改良型の架台は裏側にも塗ることができ、練習効率が向上した。

第14回若手建設技能者に係る助成　**札幌左官職業訓練協会**

4つのトレーニングコンテンツの架台をアップグレード

札幌左官職業訓練協会は、職業訓練法による認定職業訓練等を行う団体であり、同会が設置する施設として「札幌左官高等職業訓練校」が設けられている。この歴史ある訓練校は過去に休校の危機に直面したものの、2014年に訓練の期間や内容の大幅な見直しを行い、直近10年間で82名の卒業生を輩出するなど、現在では後継者育成の重要な場となっている。

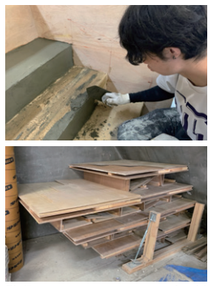
会員企業の新入社員は、この訓練校で1年間、計1,438時間にわたって建築の基礎学科や、左官やタイルに関わる座学と実技を学び、左官職人として基礎的な知識と技能を習得する。

今回、同協会では訓練校の教育プログラムである「塗り壁トレーニング」「サッシモルタル埋めトレーニング」「階段モルタルトレーニング」「技能照査検定（訓練校の卒業試験）」の4つに関して、戸田みらい基金の助成を活用してトレーニングに使用する架台のアップグレードを行った。

同協会の中屋敷剛副会長は「これらのトレーニングは長年取り組んできたものですが、その中で既存架台の改良点が見えてきました。今回の助成により改良型の架台を導入できたことで、準備作業を大幅に削減して実際のトレーニング時間が増え、校生たちの習熟度も大きく向上しました」と語る。

職業訓練法人 札幌左官職業訓練協会
〒003-0005
北海道札幌市白石区東札幌五条1-1-2

サッシモルタル埋めトレーニングの新しい架台。本物のコンクリート躯体と同じ寸法・形状を木枠で再現している。



階段モルタルトレーニングの新しい架台は折り畳みが可能。

訓練校の卒業試験である技能照査検定に用いる新しい架台。従来型と比べて強度と効率性が向上している。

若者が働きやすい環境を整え、建設業の明日を担う人材を育てる

戸田みらい基金の助成対象である企業や団体・学校が、それぞれの若手建設技能者の育成について発表する「活動報告会」。ここでは 2024 年の 2 月と 10 月に開催された第 14 回・第 15 回活動報告会から 4 団体・2 社の発表を紹介する。

第14回 活動報告会

2024 年 2 月 28 日開催

会社名・団体名	テーマ
関ヶ原ストーンギルド株式会社	若手建設技能者育成、据付作業の教育
東海地区型枠工事協同組合	建設業界従事にあたり必要な知識・技術を習得する高等技術専門校への支援事業
一般社団法人全国建築測量協会	登録建築測量基幹技能者、1・2級建築測量技能者資格保有者の創出
兵庫県左官工業協同組合	担い手確保と技能取得の環境整備
香川県立坂出工業高等学校	閉校になる中学校の樹木で地域と一緒に記念品をつくる
株式会社児島技研	児島しごと博（高校生を対象とした地元の企業や産業についての理解を深める異業種交流会）の開催
公益社団法人日高地域人材開発センター運営協会	土木技術者養成研修（新入社員コース）

太字の団体・企業・学校を、p. 12-14 に掲載。

第15回 活動報告会

2024 年 10 月 9 日開催

会社名・団体名	テーマ
田村左官工業株式会社	未来を拓く若手建設技能者の育成
関東建設インテリア事業協同組合	第 34 回ジェイシフ全国技能競技大会開催
クレア工業株式会社	企業広報を通じての「左官業の周知」と「若年層の採用・入職促進活動」
長野県丸子修学館高等学校	① 伝統建築大工技術を学ぶ ② 学校創立 110 周年記念事業、正門改修工事 ③ 生徒が行う地域の文化財修復 天満宮・金刀比羅神宮覆殿、木祠修復
株式会社アスタス	キルギス若手人材による建設業における人材育成・採用・紹介事業について
職業訓練法人札幌左官職業訓練協会	左官業界の新人育成（札幌左官高等職業訓練校）
一般社団法人クラフツメンスクール	① サイディング技術者養成講座 ② 防水技能試験対策講座 ③ 瓦葺試験対策講座の学習ビデオ作製

石工事技能習得のための環境を整備

関ヶ原ストーンギルド株式会社

左：据付練習場での石張り練習風景／中：実技試験練習用の鉄製の柱型／右 2 点：新素材・加工工場の見学会。

2015 年に関ヶ原石材のグループ会社として創業した石工事業の関ヶ原ストーンギルド。「建築石材業界唯一の石張り職人育成会社」を称する同社では、東京・名古屋・大阪・九州から集まった職人の育成に取り組んでいる。現在、インストラクター 10 名、教育者（生徒）10 名の計 20 名を擁しており、石張り 1 級の取得や将来的な独立まで見据えた教育を行っている。

近年、石工事業界では壁施工物件の減少による「施工するチャンスの減少」、短納期傾向による「教育時間の減少」、技能試験受験者の減少による「試験の減少」、そして石材以外の材料を扱う機会の増加による「新たな教育の必要性」が生じている。そこで同社では戸田みらい基金の助成を活用して、①据付練習場の新設、②施工技能士実技試験の練習用下地の新設、③新素材・加工工場の見学、を実施した。同社では「練習場や下地の新設により、若手社員が自分のペースで勘所を掴むことができ、技能向上に繋がりました」と語る。

建築測量に携わる技能者の技術と社会的地位の向上を目指した取り組み

一般社団法人 全国建築測量協会

左：建築測量技能者試験（実技）の様子／中：登録建築測量基幹技能者講習の様子（上）とテキスト／右 2 点：団体設立以前の課題（上）と現在までの成果。

全国建築測量協会は、建設現場において設計図書を原寸大のサイズで位置出しする「墨出し」の業務を行う企業の全国団体である。現在、正会員 43 社と賛助会員 2 社、約 2,000 名の技能者を擁している。

建築測量は建設業における他の業種と比べて専門工事会社の歴史が浅く、同協会が 2017 年に発足するまで業界団体が存在しなかった。同協会の設立後、建築測量に携わる全国の技能者から課題を集めた結果、①公的な講習の整備、②専門資格（民間）の新設、③技術レベルの明確化、を目指すこととなった。

その後、現在に至る 7 年間の取り組みの結果、①については「登録基幹技能者講習」の整備と実施、②については「1 級・2 級建築測量技能者」資格と資格取得者の輩出、③については建設キャリアアップシステム（CCUS）を活用した「建築測量」能力評価基準の認定という成果を達成した。同協会では、一連の取り組みに関わる費用の一部について、戸田みらい基金の助成を活用している。

技能取得と担い手確保の環境整備

兵庫県左官工業協同組合

左：今回、同組合では戸田みらい基金の助成を活用して技能検定試験の検定台を刷新した／右上：出前授業の様子／右下：子供たちと光る泥団子を制作。

兵庫県左官工業協同組合は、兵庫県の左官に関わる技能検定試験の実施の他、若手入職者を増やすための各種活動を展開している。同組合ではこれらの費用の一部に戸田みらい基金の助成を活用することで、取り組み内容の充実化を進めている。

まず同組合が実施している技能検定試験については、多くの若手技能士が合格できる技能に至るよう、毎年、実技講習会を開催している。また、若手入職者を増やす取り組みのひとつとして継続してきた工業高校への「出前授業の実施」について、近年は学校のカリキュラム過密化により、より短時間での対応が求められるようになっていた。そこで同組合では塗り壁台や材料等の増設を行い、一度に多数の生徒が実技を経験できるようにすることで、短時間で出前授業に対応できる体制を整えた。

さらに、神戸市の「技能グランプリ＆フェスタ」に参加し、左官体験や光る泥団子制作といったイベントも開催している。

国際見本市「JAPANTEX」の会場で技能競技大会を開催

関東建設インテリア事業協同組合

東京ビッグサイトで開催した「ジェイシフ全国技能競技大会」の様子。左：壁装工事作業／右上：プラスチック系床仕上工事作業／右下：体験会。

関東建設インテリア事業協同組合は、関東で内装工事に関わる中小企業 38 社が会員となり、業界の地位向上や技能士の技術向上などを目的とした活動を続けている。

内装工事業界においても技能者の減少・高齢化、若年者の入職減少は大きな課題である。同組合ではその対策として日本最大級のインテリア国際見本市「JAPANTEX」の会場において、様々な内装工事の技を競う「ジェイシフ全国技能競技大会」を 3 日間にわたり開催した。

「私たち組合としては、多くの方々が集まるこのイベントで技能競技大会を開催すれば、内装工事についてより広くアピールできるのではないかと考え、JAPANTEX での開催を決めました」と森屋親幸事務局長は語る。結果として、今回の競技大会には多くの工業高校や専門学校から見学者が訪れ、盛況のうちに幕を閉じた。森屋事務局長は「この取り組みは今年 3 年目を迎えますが、組合の企業に入職する若者も少しずつ増えており、手応えを感じています」と話す。

キャリアサポートとリクルート、職場環境改善を組み合わせた大改革

田村左官工業株式会社

左及び中上：技能検定技術研修の様子／中下：実際の建設現場で体験会を実施／右 2 点：専任の柔道整復師が「左官体操」を開発し、また各現場も巡回。

大阪府高槻市に本社を置く田村左官工業は、1971 年の設立以来、左官一筋に 53 年間、業務を続けてきた。しかし、近年は多くの建設会社と同様に「キャリアマップが無いことによる若手社員の離職」「職人の高齢化による技能伝承の危機」「世代間のギャップによる職場環境の悪化」という問題に悩まされてきた。これらの問題に対処して「将来の現場を担う若手人材の育成」を実現するため、同社では①若手社員の明確な目標となるような「技能検定技術研修・資格取得支援」、②学生や休職者を対象とした職業体験や見学会を通して本物の左官技術に触れてもらう「技能体験アカデミーによる技術伝承」、③メンタリストや柔道整復師によるケアを通した「心理的安全性を重視した働きやすい職場環境への改善」に取り組んだ。同社の岡村幸枝総務課長は、「これらの活動費用の一部に戸田みらい基金の助成を活用させていただきました。一連の取り組みにより、既存社員の資格取得、新入社員の入社、離職率の低下という成果に繋がっています」と語る。

ものづくりの楽しさと仕事の基本を教える取り組みを10年間継続

一般社団法人 クラフツメンスクール

3 点：サイディング実務者養成講座の様子。10 日間の合宿で、新人を「一人前の見習い」に育成。

クラフツメンスクールは、職人不足解消を目的として 2014 年に設立された団体であり、建設に関わる元請け、専門業者、メーカー、商社が協力して、入職した若者たちに「仕事の基本」を体系的に教育している。同スクールの仲本純校長は「若者がせっかく建設業に入職してもすぐに辞める状況が続いていた中で、ものづくりの面白さを感じてもらうことで離職に歯止めをかけたい、という想いから活動を続けてきました。今年で 10 年目を迎えます」と語る。

現在、活動の中心となっている「サイディング技術者養成講座」では、10 日間の合宿で外壁工事に関わる基本的な知識や技能を身につけ、新人を「一人前の見習い」に育てるカリキュラムを組んでいる。同スクールでは今回、戸田みらい基金の助成を活用して、会員企業からの要望が多かった「外国人技能実習生向けの日本語教育」「2 級・3 級防水試験対策」の実施や、難易度の高い「3 級かわらぶき検定対策」として実演ムービーの制作などを行っている。

第6回教育振興に係る助成　**長野県丸子修学館高等学校**

1

生徒が行う地域の文化財修復 丸子修学館高校の実習型教育

長野県の丸子修学館高校は、県下最大規模の総合学科高校として、
地域社会の活性化をリードする人材の育成を目指している。
その校風から、同校の工業分野では長年、授業の一貫として
生徒たちの手により地域に貢献する取り組みを継続している。

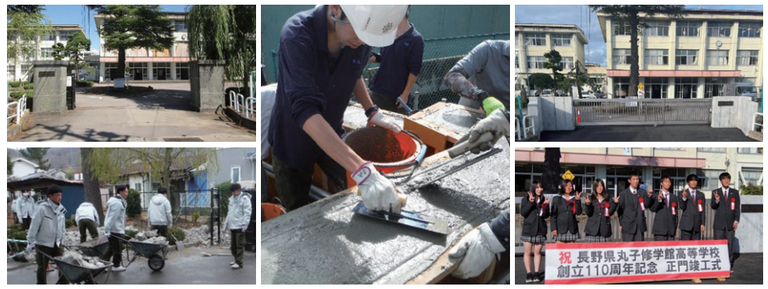
上：2024年11月、完成した天満宮・金比羅神宮の前で、
製作に関わった生徒たちと、戸兵実習助手（右端）及び大村教諭（右から2番目）。

丸子修学館高校の地域貢献活動の歴史は古い。
同校の戸兵勝実習助手は「始まりは2003年に地元の海戸地区というところにポケットパークを建設したことです。以来20年以上にわたって、公園の整備、道路の改修、そして公民館のふれあい広場の整備等の多様な事業を、生徒たちが授業の一環として地域の方々と一緒に取り組んできました。これらの活動の原点には、地域に支えられている学校として、地域に何か恩返しをすることはできないか、という想いがありました」と語る。

戸田みらい基金の助成を活用した実習型授業

また、同校では近年、戸田みらい基金の助成を活用することで、生徒たちがものづくりの実践に携わる新しい取り組みにも挑戦している。
その第一弾が「伝統建築大工講習会」である。これは地元の現役の大工さんを学校に招いて、鉋（かんな）や鋸（のこぎり）などの道具の使い方について生徒が学ぶというもの。戸兵実習助手は「最近の若者は日常生活でこうした道具に触れる機会がほとんどないので、この講習会で初めて大工道具を使ったという子も多く、生徒たちがものづくりの楽しさを体験する良いきっかけになったと思います」と話す。

伝統建築大工講習会の様子。材料や工具代に助成を活用している。



丸子修学館の創立110周年記念事業として実施された「正門改修工事」。生徒たちが鉄筋コンクリート工事を学びながら、地元建設会社と共に新しい門柱を設計・施工した。この工事に関わる材料費の一部に戸田みらい基金の助成を活用している。

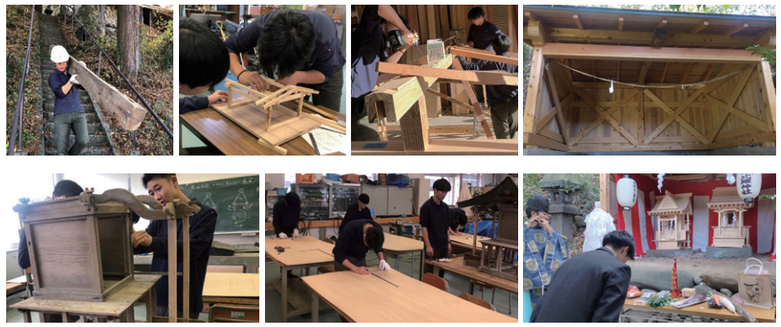
次に第二弾となったのが2022～2023年度の2年間取り組んだ「正門改修工事」である。これは同校の創立110周年記念事業として劣化した正門の門柱に代わる、新しい鉄筋コンクリート製の門柱をつくるというもの。生徒たちはCADで図面を作成するところから、既存門柱の解体、配筋、型枠の組み立て、コンクリート打設等の作業を経験しながら、母校の新しい正門をつくり上げた。

天満宮・金比羅神宮の覆殿・祠の修復

ここで話は冒頭の地域貢献活動に繋がる。同校では戸田みらい基金の助成を活用した第三弾の取り組みとして、2023～2024年度の2年間にわたり、地域にある天満宮・金比羅神宮の覆殿と祠の修復作業に取り組むこととなった。担当した大村直紀教諭は次のように話す。「これは地元自治会から修復依頼をいただいたことがきっかけでした。歴史ある文化財修復というこれまでにない挑戦でしたが、地元の大工さんに協力をいただきながら、生徒たちが一所懸命に取り組みました」。
作業はまず2023年度に覆殿を完成させ、次に2024年度に本殿である木祠2基の製作を進め、2024年11月に無事完成となった。
「覆殿に関しては、解体や建設が全て手作業だったところが生徒たちも一番苦労したようです。また祠の製作については、一部の部材が腐って消失しており、その検証も行いながら図面から描き起こして製作しました」。（大村教諭）
今回のプロジェクトには2年間で計10名の生徒が参加したが、内9人が卒業後の進路として建築の道を選択したという。
「地域と繋がり、貢献するだけでなく、多くの生徒たちが、自らものづくりを志すきっかけにもなりました。非常に良いプロジェクトだったと思います」と戸兵実習助手は語る。

長野県丸子修学館高等学校
〒386-0405
長野県上田市中丸子810-2
https://www.nagano-c.ed.jp/marukohs/

学校から車で約10分の距離にある天満宮・金比羅神宮。（修復前の写真）



上：2023年度に実施した覆殿の修復作業。解体作業は手作業。模型を製作した上で、実際の製作を行った。
下：2024年度に実施した木祠2基の製作。複雑な部材の製作と組み立てに苦戦しながら、無事完成させた。

第6回教育振興に係る助成　**岡山県立岡山工業高等学校**

2

「岡山道路パトロール隊」の理念とその歩み

岡山工業高校土木科が、県内の土木系学科高校と共に展開している
社会インフラメンテナンス活動「岡山道路パトロール隊」。
高校生たちが、身近な道路の異常を調査・発見する
この産学官一体の取り組みが、今、大きな注目を集めている。
その仕掛人である同校の狩屋雅之教諭にお話を伺った。

上：道路パトロール隊の活動風景。

── パトロール隊の活動について教えてください。

狩屋　これは国道の管理者である国土交通省が、管理する道路をフィールドとして提供し、その区間の保守・維持業者が高校生を技術的にバックアップ、そして土木系学科の高校生が道路パトロールを行い、異常があれば報告するというものです。関係する三者が「三方良し」の関係で繋がる産官学連携プロジェクトとなっています。特に高校生たちにとっては、自ら課題を発見して解決策を考えるという、高次元な学びの機会にもなっています。

パトロール隊の始まりと現在

── パトロール隊はどのように生まれたのでしょうか？

狩屋　きっかけは今から約10年前に遡ります。当時、私は笠岡工業高校に勤めていたのですが、そこで授業の一環として、生徒たちと橋梁点検活動をしていました。2012年に笹子トンネルで天井板落下という大事故がありましたが、インフラの老朽化に対して、国や自治体・専門業者の限られた人員だけでは防ぎきれない。そこで専門土木を学ぶ高校生も何か力を発揮できるのではないかという想いから始めたのが、この橋梁点検活動でした。3年間で延べ約140橋の点検を行いましたが、ちょうど私が岡山工業高校に転勤するタイミングに、橋梁単独から、それも含めた「道路」という解釈に広げて「道路パトロール隊」というかたちになりました。現在、「道路パトロール隊」は8年目を迎えますので、活動そのものは計11年になります。

私は26歳の時に教師になりましたが、その前に民間のコンサル会社に勤めていた経験があり、橋の点検等についての知見をもっていました。このため笹子トンネルの事故を受けてインフラメンテナンスの重要性が叫ばれていた時、「これは高校生でも地域や社会に貢献できるのではないか？」というイメージがあったのです。

また生徒たちの学びという面から考えても、学校というのは、ともすると教室の中だけで完結する教育スタイルになりがちです。その壁を超えて社会の様々な立場の人々と協働する中で、若い子たちが学ぶことが多くあるのではないか考えました。

── 調査システムも進化しているそうですね。

狩屋　はい。当初は国土交通省からいただいた敷地調査図という図面とデジカメ、そしてホワイトボードを持って、生徒たちが道路上の異常を発見したら、地図上にメモを書いて、ホワイトボードを持って撮影、という完全アナログ方式で調査をしていました。現在は、パトロールで発見した異常箇所を撮影し、それをクラウド上にアップすることで、道路管理者や事業者とデジタルで情報共有するかたちに進化しています。

上：「岡山道路パトロール隊」の概念図／下2点：戸田みらい基金の助成を活用して「建設技術フォーラム2023in ちゅうごく」にてブース展示とセミナー発表を行い、また道路に関する国内最大の会議「日本道路会議」にも出席した。

岡山工業高校の生徒たちが制作した絵本『いんふら星のものがたり』。
デジタル版がYouTube上にアップされている

左：2024年5月、天皇皇后両陛下に活動内容をご説明するパトロール隊。
右2点：建設業振興基金の「高校生の作文コンクール」において、約1,000件の応募から道路パトロール隊メンバーが不動産建設経済局長賞等を受賞した。

年少者向けの絵本を制作！

狩屋　岡山工業高校では2022年に絵本を制作しました。これは社会インフラの老朽化という問題と、そのインフラを支える建設産業の魅力について、小さな子供たちに伝えることを目的としたものです。ストーリーは道路パトロール隊での経験を元に土木科の生徒たちが考え、デザイン科の生徒が作画を担当しました。岡山市内の小学校や幼稚園に贈呈したところ、大変好評をいただきました。また昨年5月に天皇皇后両陛下が岡山にいらっしゃったのですが、この時、地域・社会貢献というテーマで、「道路パトロール隊」の活動について両陛下にご説明させていただきました。

現在岡山県で展開しているこの「道路パトロール隊」の活動が、将来的には全国に広がることを目標に、これからも頑張っていきます。

── 本日はありがとうございました。

岡山県立岡山工業高等学校
〒700-0013
岡山県岡山市北区伊福町4-3-92
https://www.okako.okayama-c.ed.jp/index.html

3

第 6 回教育振興に係る助成　**鹿児島県立鹿児島工業高等学校**

先輩から後輩への技術伝承と生徒たちのスキル取得を実現する「建築部」の活動

鹿児島工業高校の部活動「建築部」では、ものづくりの知識・技術を先輩から後輩へ伝承する取り組みを展開している。「これは指導者である教員の力量や異動によって部活動の質が変わらないように、生徒たち自身によって伝統を創り上げることを意図しています」と同校の山下隆一実習教諭は話す。
具体的には、2 級建築 CAD 検定と 2 級建築大工、2 級建築施工管理技士試験等を全員取得し、その他の設計コンペや資格取得に挑戦、そしてものづくりコンテストへの参加等を行っており、そうしたチャレンジの中で先輩から後輩へと知識や技が伝えられている。3 年間の活動を通じて、生徒一人一人が確かな技術・技能と、チーム内で人に教えることが出来るリーダーシップを身につけることを目指している。山下実習教諭は「在学中にこうしたスキルを備えて、多くの武器を持って社会に羽ばたいて欲しいと思います」と語る。

4

第 5 回教育振興に係る助成　**北海道小樽未来創造高等学校**

助成を活用し、研ぎ出し仕上げのコンクリートベンチを製作

小樽未来創造高校の建設システム科では、測量や土木材料実験を中心とした実習を行ってきたが、生徒からは「何か形に残るものを作りたい！」という要望が多かった。しかし、製作費などの面で課題があり、これまで実現には至らなかった。「そうした中で戸田みらい基金の存在を知り、その助成を活用して道具などを揃えることで、鉄筋コンクリート製のベンチを製作することができました」と同校の荒木斉教諭は語る。
今回は見た目や清潔感の点から、コンクリート加工技術のひとつである「研ぎ出し」に挑戦している。製作においては、コンクリートの強度計算から、座面の試作と載荷試験、型枠づくり、鉄筋の加工と設置、コンクリートの打設と脱型、そして仕上げの研ぎ出しに至るまで生徒たち自身の手で行い、コンクリートによるものづくりの難しさと楽しさを学ぶ貴重な経験となった。

5

第 6 回教育振興に係る助成　**熊本県立玉名工業高等学校**

「地域の橋は地域で守る」道路橋を工業高校生が検査・メンテナンスする取り組み

現在、わが国のインフラの多くが耐用年数とされる 50 年を超えており、事故も発生している。その中で橋梁に関しては、各市区町村が少ない人員の中で維持管理の多くを担っており、実際に玉名市でも約 5 名の職員が約 800 もの橋梁を管理している状態である。そこで玉名工業高校は市に対して「学校周辺の道路橋は私たちがメンテナンスさせて欲しい」と申し出たところ、快諾を得ることとなった。
同校では、まず生徒たちがインフラメンテナンスに関するオンライン講義を受け、インフラ老朽化の仕組みなどを学んだ。次に GoogleMAP を活用して市とデータを共有・管理する方法を構築している。そうした準備を経て、実際にコンクリート打診棒や洗浄機を用いて、橋梁の検査やメンテナンス作業を行っている。同校ではこの橋のセルフメンテナンスモデルをより広く展開していく予定である。

6

第 5 回教育振興に係る助成　**山形県立山形工業高等学校**

「日本一、空気が綺麗な空」を楽しむためのウッドデッキを製作

山形県は、大気中の PM2.5（微小粒子状物質）の濃度が全国で最も低く、「日本一、空気が綺麗な都道府県」としてニュースにも取り上げられている。
山形工業高校ではこの環境を活かして、「山形の美しい空を見ること」ができるウッドデッキ製作に取り組んだ。設置場所は寒河江市の寒河江公園芝生広場である。
製作においては「リラックスして空を見ること」を重視して、腰の負担が軽減され、楽な姿勢で横になることができるデザインを市販のベッドなどから調べて設計を行った。また大人ふたり、子供ふたりの 4 人家族が横になっても耐えられる構造を実現している。
無事に完成した今回の取り組みについて、製作に携わった生徒は「ここで多くの皆さんに山形の空を楽しんでいただき、安らぎのひとときを過ごして欲しいです」と語る。

日本での仕事を通じた意識や技能の成長を発表

第5回 建設業の外国人技能実習生等による日本語スピーチコンテスト 本選開催：2024年11月27日／会場：AP東京八重洲

戸田みらい基金の今井雅則理事長による挨拶

第5回を迎えた「日本語スピーチコンテスト」。今回は「あなたが日本に来て成長を感じること」をテーマに、本選に進んだ10名がそれぞれの想いをスピーチした。

技能実習生（2・3号）または特定技能の方を対象とした戸田みらい基金主催の日本語スピーチコンテスト。「あなたが日本に来て成長したと感じることは何ですか？」をテーマとして開催した今回のコンテストには、過去最多となる103名の応募があった。

戸田みらい基金では、建設業で働く技能実習生と特定技能の方々が、日々どのような想いをもって働いているのかを知るため、2024年夏に1,270名の方々にアンケートを実施した。その主な質問項目は「技能実習制度の良くないところは？」「仕事を決める重要な要素は？」というものである。その回答として前者の質問に対しては「滞在期間が短い」「給料が安い」という回答が、後者の質問に対しては「十分な給料」「キャリアアップ」という回答が多い結果となった。

この結果を踏まえて戸田みらい基金の今井雅則理事長は、スピーチコンテストの冒頭で「建設業界全体で賃金体系を考えることや、実習期間後のキャリア支援が重要だ」と語った。

左：全員のスピーチ終了後に行われた来賓挨拶において、国土交通省の蒔苗浩司大臣官房審議官は、「本日、現場で働く皆さんのスピーチを伺い、改めてコミュニケーションと日本語習得の重要性を感じました。そうした観点を活かして、皆さんが日本で長く働いていただける制度をつくっていきたいと思います」と語った／中：厚生労働省の川口俊徳職業安定局外国人雇用対策課長は、「数年後に技能実習制度が育成就労制度に変わります。国際的な人材獲得競争が激化する中で、今後ともわが国が皆さんから『この国で働きたい』と思っていただき、選ばれる国となるよう、より良い環境を整えていきます」と語った／右：スピーチを行った皆さん。

最優秀賞

氏名	会社名	職種	在留期間	母国
ホク・ソムナン	日起建設（株）	重機オペレーター	45カ月	カンボジア

優秀賞

氏名	会社名	職種	在留期間	母国
チャン・ズィ・カイン	（株）竹延	塗装工	51カ月	ベトナム
ムハマド・ファルハン・イブラヒム	（株）北川組鉄工所	溶接工	26カ月	インドネシア

優良賞

氏名	会社名	職種	在留期間	母国
レー・トゥアン・ナム	大功建設（株）	土工	27カ月	ベトナム
ホアン・ヴァン・チュン	（有）富澤工業	鳶工	137カ月	ベトナム
グエン・バン・カウ	（株）青木工業	防水工	63カ月	ベトナム
イルファン・セティヤワン	横田鋼業（株）	溶接工	26カ月	インドネシア
ヒュン・チオン・ニャン	（株）ビルト	内装化粧ボード工	26カ月	ベトナム
グエン・バン・ビン	（株）ヒロキコーポレーション	鳶工	68カ月	ベトナム
ヘイン・サン・ウイン	（株）兼藤	内装床仕上工	26カ月	ミャンマー

審査結果と受賞者の所属・国籍など

最優秀賞

異文化で長く働くために欠かせない、継続的な努力と挑戦

ホク・ソムナンさん

日起建設／愛知県／重機オペレーター

カンボジア出身

カンボジアから技能実習生として来日して4年目になるホクさん。現在34歳のホクさんにとってカンボジアにいる愛する家族の健康な生活が、異国の地で頑張る自身の心の支えだと話す。日本での4年間は、まさに「自分自身の成長の日々」だったという。仕事を通じた「技術的な向上」や「時間管理・責任感の向上」はもちろん、日本語の習得を通じた同僚や上司との「コミュニケーション能力の向上」から人間関係の重要性も強く意識するようになり、多くの友人ができたという。

日本で長く働くためには、継続的な努力と新たな挑戦を続けることが大切だと、ホクさんは力を込めて語った。

優秀賞

「命を守る現場の基本」を母国に

チャン・ズィ・カインさん

竹延／大阪府／塗装工／ベトナム出身

来日して4年半、大阪で働くチャンさんはカレーとたこ焼きが大好き。そのチャンさんが日本で成長したと感じるのは「現場での安全意識」だという。多くの規則や装備は、これらを支える重要なものであり、将来は母国にこの大切な意識を普及させたいと話した。

日本の品質を支える言葉の大切さ

ムハマド・ファルハン・イブラヒムさん

北川組鉄工所／北海道／溶接工／インドネシア出身

石狩市で建物の鉄骨柱をつくっているムハマドさん。日本の正確な仕事や時間管理を支える、コミュニケーションの重要性を実感し、大きく成長したと話すムハマドさんは、将来インドネシアに帰って日本語学校を作ることが夢だとスピーチした。

戸田みらい基金の概要

所在地	東京都中央区京橋一丁目7番1号 （戸田建設株式会社内）
理事長	今井雅則
事業内容	1.若手建設技能者の採用・育成及び資格取得に係る助成事業 2.建設に関する教育振興に係る助成事業 3.女性建設技能者の就労促進に係る事業 4.外国人建設技能者の育成と就労の促進に係る事業 5.その他この法人の目的を達成するために必要な事業
設立年月日	2016年10月3日
設立者	戸田建設株式会社

お問い合せ　一般財団法人 戸田みらい基金事務局
TEL　03-3564-2711
E-mail　info@toda-mirai.or.jp
HP　https://toda-mirai.or.jp

TODA MIRAI FOUNDATION GUIDEBOOK Vol. 6
［発行日］2025 年 2 月 25日
［発行］一般財団法人 戸田みらい基金
©2025 TODA MIRAI FOUNDATION
本書の記事、写真、図版などの無断転載および複製を禁じます。